

4-10 藻類

(1) 形態観察

- 規則的配列など、特徴的な構造があるか観察する。
- スライド標本を作ると細胞の配列が崩れるため、直接観察した方が構造を観察しやすい場合もある。

※写真は記載された光学倍率での観察像を示しており、写真から算出される大きさは保証しない



写真1 昆布 (×1500・透過)

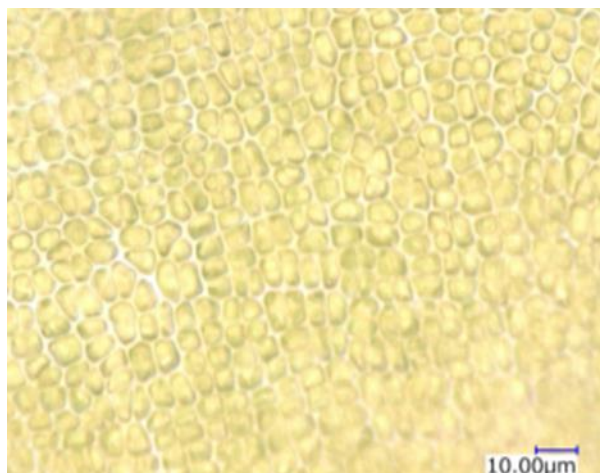


写真2 ワカメ (×1500・透過)

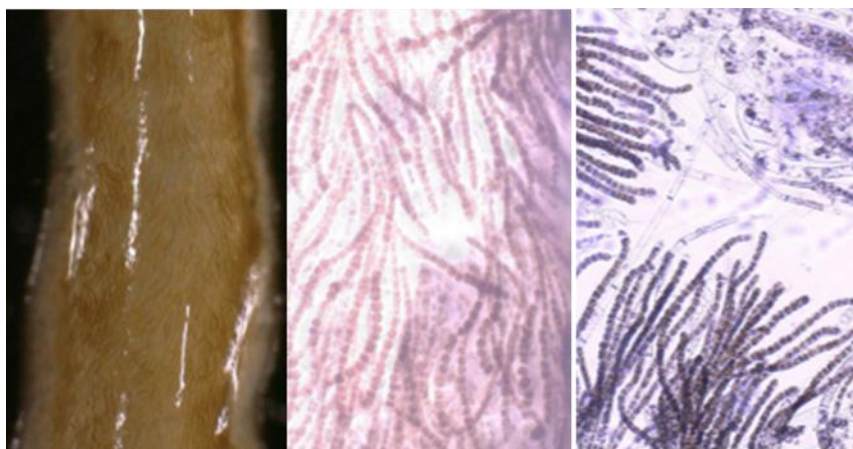


写真3 モズク (左：×100 中：×500・透過 右：×300・透過・スライド)

(2) 簡易分析

- 刃物(カミソリ等)による切断、挿入切断、挿入
 - 切断・挿入可能だが、乾燥すると硬くなる。
- 水との反応
 - 乾燥している場合、吸水すると軟化・膨潤する。

（３）機器分析

① FTIR

- タンパク質やマンニトールなどのスペクトルが見られる。藻類によって異なる。

② 元素分析

- 実施しない。

（４）異物鑑定のポイント

- 外観観察により、細胞が整列した構造が見られる。
- 藻類の構造は多種多様である。対照物があれば、対照品と細胞の大きさや形状を比較する。
- FTIR で得られるスペクトルは、藻類の種類による。対照物と比較することが望ましい。

（５）異物混入事例

- 昆布を日干しする際、砂利が付着することがある。
- 昆布表面に成分が析出し、白い粉やカビが付着したように見えることがある。
- 昆布表面にプランクトンが接着し、白い物質が付着したように見えることがある。
- オゴノリは形態が紐や毛髪に見えることがある。
- 海産物には不特定多数のものが混入する可能性がある。